

GD(グループディスカッション)について

地域共創研究科 地域共創専攻 M1

1

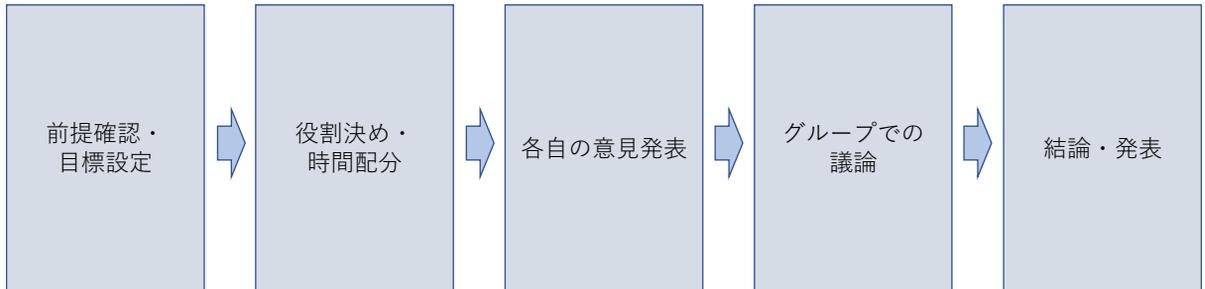
本稿の内容

- ・本稿ではグループディスカッション(以下GD)の方法論について解説します。
- ・GDの定義や範囲は様々ですが、ここでは「お題に対する複数人の意見発表とその擦り合わせによる知識生産の場」をGDと定義します。
- ・大学入学以降、共通・専門・必修科目の講義で経験があると思いますが、進め方についての具体的な解説は入学したての頃に受けたきりだと思います。GDという集団での議論について改めて学んでおくことは、今後の就職活動においても選考突破の為に重要になると思います。

2

GDの流れ

- ・GDは大きく分けて5つのフローに分かれます。
- ・講義・就活でここに違いはありません。



3

前提確認・目標設定

- ・まず初めに「そもそも何を議論するのか」「どのような結論を出すのか」を検討します。
- ・GDのお題についてはそれぞれ以下のようなケースが考えられます。

講義

- ①学んだものについて意見を出し合うケース
- ②事前に提出した課題に基づいて議論を進めるケース
- ③ゼミで担当者が作成したレジュメを基に、設定された論点について議論するケース

就活

- ①売上向上策/新規事業立案などのビジネスケース
- ②「IR法案の是非」などの公共系ケース
- ③「より良い社会とは何か？」などの抽象的ケース。
※就活では前提の擦り合わせをより綿密に行う必要がある。

4

役割決め・時間配分

- ・前提を確認したら役割を決めます。それぞれについて紹介します。
- ・このうち、3つ目のタイムキーパーについてはファシリテーターが兼任、もしくは全員で担うパターンも多いです。

ファシリテーター(司会)



- ・意見をまとめたり話を振ったりなど、議論を円滑に進める役割
- ・選考では有利になる場合が多い

書記



- ・発言をメモし議論をサポートする役割

タイムキーパー



- ・議論をどれくらい行い、何分で結論を出すのかを把握する役割
- ・全員で担うケースもある

5

各自の意見発表

- ・お題について各自の意見を発表します。
- ・講義の場合は事前の課題や授業を聞いての感想を発表することが多いですが、さらに踏み込んでなぜその感想に至ったのかという根拠まで語るとより深い議論に繋がります。
- ・就活では最初で設定した前提に基づいた主張である必要があります。

6

グループでの議論

・司会を中心に、それぞれの発表者の意見について類似点と相違点を洗い出し、議論を行います。それぞれにおける注意点は以下の通りです。

講義

・箇条書きのような形で問題ないパターンが多い
→どのような意見が出たの把握する
→それぞれの意見の関係性(どこに注目したのか、自分とどう違うか)を検討する

就活

・最終的に意見を1つにまとめる必要があるのがほとんど。
→議論を通して意見の「擦り合わせ」を行う。
→意見を構造化(関係性をまとめる)し、見落としている点を探りながら議論を進めることも重要。

7

結論・発表

- ・それぞれと意見を交換した後、最終的にそれらを並べたり取りまとめを行い、発表を行います(基本は司会が発表担当です)。
- ・就活の場合は簡単なスライドを作成することもあります。
- ・基本的にそれ以外のメンバーは聞いているだけですが、他のグループではどのような意見が出たのかを把握することも重要です。

8

終わりに

- ・GDは特に文系の学生は何回も講義の中で経験します。
- ・フローごとの目標を理解し、講義の内から意識しておくことで、就活においても有利に立ち回ることが出来ると思います。
- ・講義のGDは時間が短いため満足に議論が出来ないケースも多いです。自分の主張を簡潔かつ明確にしておくことも重要です。